

アルペなんみんセンターで



撮影・小林恵

# こころの友

定価36円  
(本体33円+税)  
〒63円

雑誌03753-12  
点字版もあります  
(TEL.03-3202-0544)

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-41 TEL.03-3204-0427

Visual Communication Design Convivia

印刷所 三松堂(株)

## 2021 12

難民とは、自国にいと迫害を受ける恐れがあり他国に逃れた人のこと。避難先で難民認定を受ける必要があるが、欧米諸国の認定率が20〜50パーセントであるのに対し、日本は1パーセントに満たない。2019年、日本への難民認定申請者は1万3755人、認定者はわずか44人だった。難民と認められず、しかし祖国にも帰れず、出入国在留管理庁(入管)の施設に長期収容される人がいる。「仮放免」を受け、入管施設から出て社会で暮らしながら、難民

## 生きていてよかったと思える家を

NPO法人アルペなんみんセンター 事務局長

### 有川憲治さん

ありかわ けんじ 1962年、鹿児島県奄美市生まれ。南山大学卒業。在学中、インドシナ難民定住支援に携わる。1995年からカトリック東京大司教区・カトリック東京国際センターで難民・移民支援。2020年、NPO法人アルペなんみんセンターを設立し、理事、事務局長。NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク理事。カトリック大船教会信徒。郵便振替口座 00250-6-107205 NPO法人アルペなんみんセンター

認定を長年待つ人もいる。その中で困窮し、路上生活を余儀なくされる人もいる。長く難民支援に携わる有川憲治さんは、日本に逃げてきた人々が日本でさらに苦しむ様子を、「彼らが生きていてよかったと思える家」と願ってきた。その願いが結実し2020年4月、鎌倉市の高台に「アルペなんみんセンター」が開かれた。緑豊かな敷地に、30の個室を持つ建物。志に賛同するカトリックの修道会から無償で借りている。ここで今、0歳から50代まで、アジアとアフリカ出身の10人が生活をしている。有川さんも住み込んで居住者と食卓を囲み、その心に寄り添う。上の写真で背中を見せているのは、スリランカ出身のフォジさん。母国で大臣のボディガードを務めていたが、武装組織に銃撃され重傷を負った。日本に逃れて20年。難

民認定がまだ下りない。仮放免中は働けず、県をまたぐ移動は禁止され、健康保険証も住民票もない。支援に頼りアバウトで孤独に生きていたフォジさんは、センターに来た当初、「生きていても意味がない。無駄な20年だった」と繰り返すばかりだった。「日本人の無関心が、彼らを困難の中に追い詰めてきたのではないかと有川さん。だからセンターを、難民と日本人が出会う場所にした。有川さん自身、大学生のときにベトナム難民の青年と親しくなったのが、この働きに進むきっかけだった。コロナ禍で注意を払いながらではあるが、センターの草刈りや農作業をするボランティアを募っている。センターで難民に関するセミナーを開いたり、有川さんが出張して講演をすることもある。フォジさんがいれる紅茶を楽しみにセンターを訪れる人や、フォジさんを自宅に招く人も出てきた。支援を受けるばかりでなく、自分にも与えるものがあるという希望を得て、フォジさんの表情が少しずつ明るくなってきている。もうすぐクリスマス。「まことの光」であるイエス・キリストが地上に生まれた日だ。幼い日から教会に育った有川さんは、苦しく悲しい思いをしている人にこそ、この救いの光が射すと信じている。「人が再び立ち上がり、歩み始めるときの希望に満ちた顔が、私の宝物です」